3

2

1_役場職員は携帯電話を使って安否情報、施設被害状況などを報告 2_寄せられた情報への対応策を協議する災害対策本部の状況 3_鬼北町消防団女性消防隊による応急手当法講習会の様子 4_災害の状況報告、それに対する対応策が防災マップの上に次々と記されていく 5_非常食の定番とも言える「カンパン」。各家庭でも日頃から備えておくことが大切

5

4

災害に対する「覚悟」と「備え」

豊田 稔 鬼北消防署長
Toyota Minoru

今回の訓練では、まだまだ不慣れな点が多く見受けられました。災害が起こったとき、役場は全体でその災害に対応していかなければなりません。例えば、毛布、食糧や水の確保、記者会見の段取りなど、いざというときに自然と体が動くようになるまで、訓練を続けていくことが大切なのです。

また、入ってくる情報を正しく取捨選択していく力も身につけなければなりません。「今一番にやるべきことは何か」を判断し、時には他の対応を後回しにする決断も必要となってくるでしょう。そういった見極める力もまた、訓練を繰り返すことで身についていく力なのです。

町民の3分の1にあたる約4，300人の方々がこの訓練に参加したということは、評価すべき点の一つと言えるでしょう。全国で避難訓練を実施すると、参加する住民は12～13％しかいないのが現状です。

また今回の訓練では、奈良中組や上大野など、いくつかの地区で自主的に訓練をしたところもあり、鬼北町住民の防災に対する意識が高まってきたのを感じています。

実際に災害が起きたとき、一番大切なことは「人の命を救うこと」です。そのためには地域の方々の協力が必要不可欠です。「このおばあちゃんはここに寝ている」そういった情報が一つの命を救うのです。隣近所が手を携えて一緒に避難する、小さな町の小さなコミュニティだからこそできることを、もっと生かしてほしいと思います。

また、子どもからお年寄りまで、全員が危機感を持ってください。南海地震は必ず起こります。「いつか」ではなく「自分が生きているうちに起こる」と覚悟を持ってください。そして、備えてください。そうした皆さんの覚悟が「減災」へと繋がります。

例えば、防災グッズを一度に揃えるのは大変ですが、月に、または年に一つ買うと決めてみてください。地区の防災訓練だけでも参加してみてください。こんな風に出来ることから取り組んでほしいと思います。

消防署でもいち早く情報を入手するため、常にアンテナを張っています。しかし、「消防署や役場がやってくれるだろう」という意識は持たないでください。「自分の命を助けるためにはどうすべきか」を、それぞれが覚悟を持って考え、必ず起こる南海地震に備えてほしいと思います。

鬼北町は小さな町ですが、一人ひとりが優しく、住民同士の繋がりがあります。やる気、本気、根気で地域の安心安全確保のため、共に頑張りましょう。